



# 令和6年度の教育目標と 教育長・教育委員からお伝えしたいこと

## 磐田市教育委員会の目標

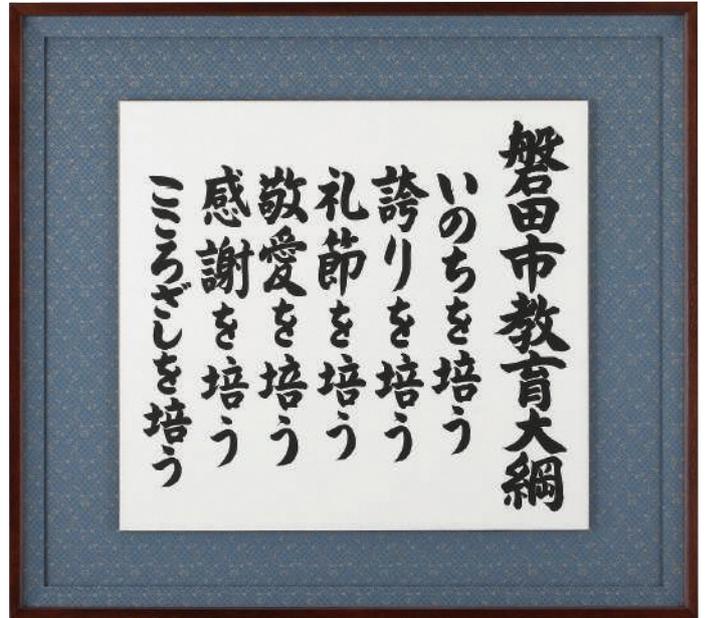
「ふるさとを愛し 未来をひらく 心豊かな磐田市民」

「子育て、教育なら磐田」と誰もが実感できるまちづくりを下記のとおり目指します。

かけがえのない命を精一杯生き、ふるさとの先人たちが築きあげた磐田の大地に根を張った人づくりの精神と伝統文化を未来へ継承し、生涯にわたり社会を生き抜く力を育成します。

さらに、学校・地域・家庭の連携・融合による学府を核とした新時代の教育コミュニティを形成し、次代の社会をつくる学びの場を創造します。

本市の未来をひらく礎となる基本理念「教育大綱」へは、「磐田の教育」道しるべ」と、子どもたちの成長を育む「磐田市こども憲章」により進むべき方向が示されています。学校・地域・家庭への浸透を目指します。



## ●●● 教育長からのメッセージ ●●●

### 「磐田市教育大綱の『培う』に込められた願い」

昭和の時代の教育者、東井義雄先生の著書に「培其根」があります。その著書の中に、「根を養えば、樹は自ら育つ。根の深さと広がり、樹の高さと広がりになる」など、先生の教育に対する思いや願いが綴られています。平成27年度に、「磐田の教育道しるべ」と「こども憲章」を基に磐田市教育大綱が策定されました。「いのちを培う」「誇りを培う」「礼節を培う」「敬愛を培う」「感謝を培う」「ころざしを培う」の6つの項目に集約された磐田市教育大綱は、全て「～を培う」と表現されており、この「培其根」の理念が込められています。この6つの項目には順序性があり、一人の人間としての絶対的価値である「いのち」がまずあり、その一人の人間が前進し成長していくためには「誇り」（自己肯定感）を培う必要がある。さらに、「人と人とのつながり」の中で、「礼節」「敬愛」「感謝」を培い、最後には、自分の夢や希望に向かうというだけでなく、世のため人のために尽くすことが最高の幸せであるという意味で「ころざし」をおき、そんな思いに向かって生きる人間を育成していきたいという願いが込められています。



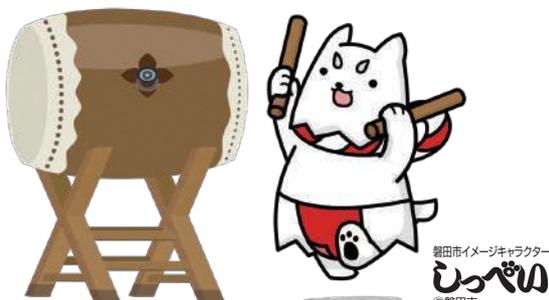
教育長 山本敏治

「根っこをしっかりと養っていく」ためには、「土地を耕し、土壌を肥やす」などの環境づくりが大切です。その環境づくりとして、現在磐田市が取り組んでいる小中一貫教育とコミュニティ・スクールの更なる推進を図り、「人と人とのつながり」を深めるとともに、「探究的な学び」を充実させ、地域や社会の様々な人、もの、こととの出会いから多くのことを学んでほしいと願っています。

### 「磐田の教育」道しるべ

- （かけがえのない命を精一杯生きる）
- （自分のよさを誇りとし自信をもって行動すること）
- （美しい立ち居振る舞いと温かな言葉づかいをすること）
- （勤労勤勉を喜びとすること）
- （真善美に照らし正しい判断をすること）
- （大志を抱き困難を乗り越ええること）
- （敬愛の心をもち家族を大切にすること）
- （感謝の気持ちは「ありがとう」と素直に伝えること）
- （年長者を敬い年少者を慈しむこと）
- （寛大な心をもつ人を愛し許すこと）
- （郷土愛をもつ伝統文化の継承を行うこと）
- （宇宙・自然への畏敬の念をもつこと）

平成二十六年三月策定



# 令和6年度磐田市教育委員会の計画体系と主要な事業

教育委員会の目標 「ふるさとを愛し 未来をひらく 心豊かな磐田市民」

## 方針1 子どもの「生きる力」の育成

「しなやかでたくましい磐田人」を育成するため、多様な他者と協働しながら、さまざまな社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り開く「生きる力」を育みます。

### 施策1 魅力ある園・学校づくりの推進

探究的な学びの推進、学府の特色を生かした小中一貫教育、コミュニティスクール、GIGAスクール構想(1人1台のLTE端末を最大限活用したICT教育)、キャリア教育の推進、防災教育・交通安全教育の推進、主体性を大切にした環境を通して行う保育、幼稚園等と小学校との連携推進、食育及び安全・安心な学校給食(地産地消、食物アレルギー対応等)

### 施策2 「個」に応じたきめ細かな支援・指導の充実

市費負担教員(ふるさと先生)の配置、教育支援員・外国人児童生徒支援員、外国人児童生徒初期支援教室(NIJI)、磐田市教育支援センターにおける支援体制の充実、スクールソーシャルワーカー・心の教室相談員等(居場所づくり)の推進、いじめや不登校などの個別対応、要保護児童等対策協議会、医療機関等との連携

## 方針2 地域コミュニティの活用

「自らのまちは自らの手で」という意識のもと、郷土愛に満ち溢れた「人づくり・地域づくり」を推進し、地域と一体となって子どもの成長を支えます。

### 施策1 地域の学習資源を生かした教育活動の推進

ジュピロ磐田ホームゲーム小学生一斉観戦、ジュピロ磐田学校訪問、静岡ブルーレヴズホストゲーム中学生一斉観戦、伝統芸能等の「ほんもの」に触れる機会の提供、郷土や地域に関する教育、市立図書館を核とした読書活動の推進(磐田市子ども読書活動推進計画・茶の間ひととき読書運動等)

### 施策2 子ども・若者を健やかに育む地域づくり

放課後児童クラブ・放課後子供教室等の児童の居場所づくり、地域連携室、部活動の地域移行(SPO☆CUL IWATAの実施)、磐田スポーツ部活、家庭教育出前講座、地域による子ども・若者育成支援、高校や大学等との連携した若者の育成、人権教育の推進、共生社会の確立(ジェンダー平等の推進、性の多様性に関する教育)

## 方針3 学びの場や環境の整備

良質な言葉に多く巡り合い、その言葉を育みながら豊かな人生が送れるよう、市民が活用しやすい「学びの場や環境」の整備を推進します。

### 施策1 学校(園)環境の充実

学府一体校の推進、公立幼稚園・こども園の再編(一部民営化移行)、学府バスの運行、校舎や体育館等の計画的な改修・修繕、特別教室等へのエアコンの設置

### 施策4 歴史遺産の整備・活用

遠江国分寺跡の整備、文化財の調査・保存・整備・活用、伝統行事の継承支援

### 施策2 就学のための経済的支援

就学援助費、特別支援教育就学奨励費、私立幼稚園運営費補助

### 施策5 生涯学習・スポーツ・文化芸術活動の環境整備

交流センター講座、「学びの師」や「学びの友」による情報提供、学びの拠点としての大学の活用、外国人に向けた日本語教育の充実、青少年を対象とした文化芸術の育成、スポーツ教室の開催

### 施策3 図書館サービスの向上

図書館資料・イベント・講座の充実、電子書籍サービスの推進、ボランティア等の育成

## 教育委員からのメッセージ

子どもたちには、野の花のようにしなやかでたくましく生き抜く力を身につけてほしいと思います。「どんなに一生懸命努力しても、うまいかなことがある。」

義務教育での数多くの小さな成功や失敗は、成功したときの喜びを体感する事であり、失敗したときの心の切り替え方や、立ち上がり方を学ぶ事になります。家族はもちろん、地域の大人や教師から愛されて育ったという感覚は、困難にぶつかったとき、それに立ち向かうパワーとなり、穏やかで優しい言葉をかけられる大人に育つことでしょう。



鈴木 好美

現代は、技術の進化や世界状況の変化により先行きが見通せない状況です。このような時代であるからこそ、我々大人は人と人とのつながりを大切にしたいと思います。また、子どもたちは、先人の残した足跡に触れ、自然との対話の中で様々な経験をし、周りとのコミュニケーションを図り、知識だけではなく知恵を付け、生きる力を育てて欲しいと思います。

そして、自らが進む道を見つけたならば、その世界で大いに挑戦し羽ばたいてもらいたいです。



秋元 富敏

中学校の部活が「地域部活動」に進んでいきます。私も子を持つ親として今後の進展に大いに興味があります。

メリットとしては児童生徒の選択肢が広がる。専門的な指導が受けられやすくなる。教員業務のスリム化が期待できる等が挙げられます。課題点として、経費が掛かる、活動場所が離れた場所になる可能性がある、指導者・受け皿の確保等の問題が出てくると思います。

地域・皆さんで子どもを育て・守り、部活動に励む子どもたちを応援していきましょう



大橋 弘和

教育委員として各学校等を訪問していると、校長(園長)先生をはじめ先生方は、子どもたちの成長・発展のために目標を定め、具体的な活動や授業内容を多角的に考え工夫していることを強く感じます。「主体的・対話的で深い学び」「地域との共生」等も時代に合わせて盛り込まれています。学校や地域と共に、子どもたちが成長しようとする力やそのタイミングに気づき、いつでも信じて応援する一番身近な大人でいたいですね。



阿部 麻衣子

# 磐田市教育委員会から皆様へ これまでしてきたこと、していること、これからのこと (令和6年4月現在)

## 1. これまでに進めてきた主な事業

### (1) 教育施策と学校教育

- ①小中学校への「ふるさと先生」の配置～市費負担教員による35人学級の実現～(H19～H29)
- ②「ふるさと礎プラン」～校長経験者4人による若手教員へのサポート体制の構築～(H19～)
- ③学校(福田中・豊浜小・竜洋東小)校舎屋上への津波避難階段の設置(H24)
- ④小中一貫教育を全10学府(中学校区)で実施(H24～段階的に、H28～全学府で実施)
- ⑤校務支援システム(H24指導要録・通信票・出席簿等、H30超過在校時間の管理)を導入
- ⑥小1～中3までの「英語」モデルカリキュラム作成(H25)
- ⑦全小中学校の校舎耐震化(H26)
- ⑧全小中学校にコミュニティスクール導入(H27～)
- ⑨食物アレルギー対応の充実(H24～)
- ⑩LD(学習障害)等通級指導教室の拡充(H30～)
- ⑪学校体育館照明LED化、トイレ暖房便座化、普通教室エアコン設置(H30～R1)
- ⑫磐田なかよしこども園の開設(H30)
- ⑬大型モニター・書画カメラを小・中学校全学級へ導入(H29～R2)
- ⑭学校給食における地産地消の推進
- ⑮ながふじ学府小中一体校開校(R3)
- ⑯岩田こども園の民営化(R3)
- ⑰GIGAスクール構想下における1人1台端末の整備(R3)
- ⑱放課後児童クラブの拡充(R5:50クラブ)



放課後児童クラブ



幼稚園の様子

### (2) 図書館と文化財

- ①磐田市子ども読書活動推進計画・茶の間ひととき読書運動
- ②デジタルデータベース閲覧サービス提供
- ③電子図書館による貸出サービス開始(H29～)
- ④学校と連携したながふじ図書館の運営(R3～)
- ⑤図書館公式Instagram、LINEアカウントの開設(R4～)
- ⑥セルフ貸出機、ICタグ関連機器の導入(R4～)
- ⑦訪問歴史教室や施設見学・講座の開催
- ⑧指定文化財保存事業(調査及び指定、民俗文化財の映像化)
- ⑨文化財保存活用地域計画の作成(R1～R3)



中央図書館開館30周年記念  
よこただいすけワークショップ

### (3) 生涯学習活動

- ①家庭教育出前講演会の開催
- ②中学生リーダー育成ボランティア講座及び  
青年リーダー育成講座の実施
- ③「二十歳の集い」(成人式)の開催
- ④趣味や関心事でつながる「30s祭」(さんじゅっさい)の開催
- ⑤学習交流センターの開放
- ⑥磐田市民文化会館「かたりあ」のオープン(R4)
- ⑦文化芸術の子ども向け公演
- ⑧ジュピロ磐田ホームゲーム小学生一斉観戦(H23～)
- ⑨静岡ブルーレヴズホームゲーム中学生一斉観戦事業(R5～)
- ⑩人権教育の推進に関する講演会・講座の開催



静岡ブルーレヴズホームゲーム中学生一斉観戦

## 2. 現在進めている主な事業

- ① 探究的な学びの充実
- ② 子どもへのきめ細かな支援(教育支援員・介助員の配置、外国人児童生徒支援の拡充、心の教室相談員の配置、磐田市教育支援センター(あすなろ)の設置、スクールソーシャルワーカーの配置)
- ③ 学府の特色を生かした小中一貫教育の充実
- ④ 地域とともにある学校づくり(コミュニティ・スクールの推進)
- ⑤ GIGAスクール構想(1人1台端末)による個別最適・協働的な学びの充実
- ⑥ 「ふるさと先生」の配置(小中一貫教育の推進と生徒指導の充実)及びふるさと礎プランの実施(若手教員へのサポート体制)
- ⑦ 子どもの自由な学びを応援する事業(本物の「人」「もの」「こと」に触れる機会の創出)
- ⑧ 英語を使ったコミュニケーション能力の育成(S.P.E.A.Kプロジェクト、e-S.P.E.A.Kプロジェクト、「英語」モデルカリキュラムとモジュール学習)
- ⑨ そろばん学習・食育学習・箏学習・国際理解教育
- ⑩ 向陽学府小中一体校整備の推進
- ⑪ 小中学校の施設整備(屋上防水改修・トイレ改修・エアコン設置)
- ⑫ 放課後児童クラブの待機児童解消に向けた取組
- ⑬ 図書館におけるDXの推進
- ⑭ 電子書籍サービスの充実
- ⑮ 読み聞かせ等ボランティア、視覚障害者サービス協力員の育成
- ⑯ 遠江国分寺跡(国の特別史跡)の整備
- ⑰ 旧見付学校附磐田文庫(国の史跡)保存活用計画の作成
- ⑱ 開発行為に伴う遺跡の発掘調査及び整理作業
- ⑲ 歴史文書館企画展、古文書ボランティアの古文書解読作業



e-S.P.E.A.K プロジェクト



中学生の部活動



国分寺再整備イメージ図

## 3. これからの課題

- ① 学府一体校の推進・教育関係施設のあり方の検討(校舎、プール、図書館、学校給食施設)
- ② 幼児教育と学校教育の一層の理解に基づいた円滑な接続の推進
- ③ いじめや不登校に対する教育支援体制の充実
- ④ 休日の部活動の地域移行(SPO☆CUL IWATAの実施)の検討
- ⑤ 図書館資料の充実と中高生・高齢者等の利用の促進
- ⑥ 文化財関連施設・史跡等の適切な維持管理と利活用の推進
- ⑦ 特別支援学校を核とした特別支援教育のあり方の検討

⇒ **生きる力を育み、「しなやかでたくましい磐田人」を育てます**

<学府一体校イメージ図>

